

臨床検査専門研修プログラム

(1) 全体像

臨床検査はEvidence Based Medicineにおける客観的な指標として、診療にかかせない。臨床検査の全般において、その品質の向上と維持に努め、適切かつ信頼性の高いサービスを通して良質で安全な患者診療に貢献する専門医が臨床検査専門医である。そのような専門医を育成すべく、大阪大学臨床検査専門研修プログラムにおいては指導医が皆さんの教育・指導にあたる。本専門研修プログラムでの研修後に皆さんは、臨床検査の基礎医学的背景、方法論、臨床的意義を十分に理解し、それを元に医師をはじめ他のメディカルスタッフと協力して適正な医療の実践に貢献することになる。

本専門研修プログラムでは、臨床検査医学総論、一般臨床検査学・臨床化学、臨床血液学、臨床微生物学、臨床免疫学・輸血学、遺伝子関連検査学、臨床生理学の基本7科目の研修を行う。基幹施設である大阪大学医学部附属病院で多くの研修を行うが、連携施設での研修を行うことにより、深みのある研修となるように工夫している。

なお、初期臨床研修修了直後または修了間もない方には下記のプログラム制を適用しますが、基本領域専門医（認定内科医など相応のものも含む）または特別な事情（義務年限、出産育児など）がある方にはカリキュラム制を適用します。

(2) 概要

コース名： 臨床検査専門研修プログラム						
大学病院・医療機関名	診療科名	専門分野名	指導者数	目的	受入人数	期間
大阪大学医学部 附属病院 および 限病院	臨床検査部	臨床検査医学	1名	臨床検査医学全般の 研修	1名	3年以上

1年目は甲状腺専門医施設である限病院（連携施設）にて、頸部超音波検査・穿刺吸引細胞診の研修と甲状腺疾患を中心とした患者の診療およびそれに伴う検査結果の使い方について集中的に研修を行う。

★頸部超音波検査・穿刺吸引細胞診集中研修時（限病院）

	月	火	水	木	金	土	日
午前	診療における 検査結果の使 用法	診療における 検査結果の使 用法・ 臨床科カンフ ァランス	診療における 検査結果の使 用法	診療における 検査結果の使 用法・ 臨床科カンフ ァランス	診療における 検査結果の使 用法・ 臨床科勉強会		
午後	超音波検査・ 穿刺吸引細胞 診研修	超音波検査・ 穿刺吸引細胞 診研修	超音波検査・ 穿刺吸引細胞 診研修	臨床科カンフ ァランス・ 勉強会	臨床検査科カ ンファラン ス・ 勉強会		
夕方	自己学習	自己学習	自己学習	自己学習	自己学習		

★頸部超音波検査・穿刺吸引細胞診研修修了後（大阪大学医学部附属病院）

	月	火	水	木	金	土	日
午前	検査室研修・ 検体検査診断 業務	検査室研修・ 検体検査診断 業務	指導医による 指導・ 自己学習	検査室研修・ 検体検査診断 業務	検査室研修・ 検体検査診断 業務		
午後	検査室研修・ 検体検査診断 業務	検査室研修・ 検体検査診断 業務	検査室研修・ 検体検査診断 業務	指導医による 指導・ 自己学習	検査室研修・ 検体検査診断 業務		
夕方	自己学習 または RCPC	臨床検査科カ ンファランス ・勉強会	研究カンファ ランス	自己学習 または RCPC	自己学習 または RCPC		

（３）実 績

４名が日本臨床検査医学会臨床検査専門医の資格を取得（４名は日本甲状腺学会専門医の資格も取得）し、更新時に順次、日本専門医機構臨床検査専門医になっているが、当プログラムでの臨床検査専門医の資格取得は現時点で０名。

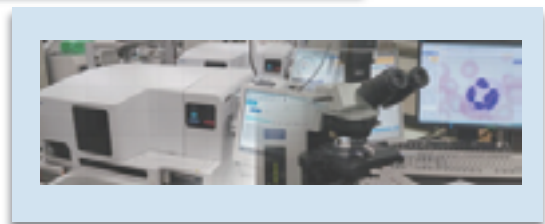
（４）指導状況

臨床検査専門医・指導医が臨床検査部の技師と協力して指導にあたる。

（５）専門医の取得

研修の修了が認定されたら専門医認定試験の受験資格が与えられる。この試験に合格すると「臨床検査専門医」となる。臨床検査専門医は、さらに経験を積み大規模中規模施設の臨床検査部門を管理・運営すること、指導医となって現在は数少ない臨床検査専門医を育成すること、教育研究機関において臨床検査医学の教育研究を担うことが期待される。

また、外来診療することにより、臨床医の目線で臨床検査部を改善していくことも臨床検査専門医には求められる。そこで本専門研修プログラムは、「日本甲状腺学会専門医」の資格も取得できるプログラムになっている。



問い合わせ先

■ 大阪大学医学部附属病院 臨床検査部

担当者 日高 洋

✉ hidaka@hp-lab.med.osaka-u.ac.jp

診療科ホームページ <https://www.med.osaka-u.ac.jp/pub/hp-lab/rinkenhome/index.html>

